カンボジアスタディツアーに参加して

千葉県立千葉東高等学校　Reo M.

小学生の頃、後藤健二著「ダイヤモンドより平和がほしい：子ども兵士・ムリアの告白」（汐文社）を読んだことがきっかけで、世界の貧困問題に興味を持ち始めました。貧困の解決策を自分なりに考えたり調べたりしているなかで、その解決策の一つに教育があることを知りました。発展途上国であるカンボジアの現状と、発展途上国の教育状況、教育現場を知ることで他の発展途上国の支援方法を探ることができるのではないか、さらには世界の貧困の解決策を見出せるのではないかと考え、参加しようと決意しました。このニュースレターではこのスタディツアーに参加して感じたことや考えたことを書きたいと思います。

ツールスレン博物館・キリングフィールドを訪れて

まず、ツールスレン博物館を訪れて感じたことや考えたことを書こうと思います。そもそもツールスレン博物館は、ポル・ポト政権時代にたくさんの人々が拷問をされた場所で、大人から子どもまで年齢関係なく収容されていました。尋問官の拷問に耐えられず亡くなってしまう人も多くいて、ここに収容されていた人々の多くはスパイなどと濡れ衣を着せられて殺されました。

そんな場所に足を踏み入れた時、異様な雰囲気を肌で感じました。拷問が行われていた部屋には当時拷問に使われていた道具が展示されていて、その部屋には独特の雰囲気が漂っていました。その拷問に使われていた道具を見ていると、拷問を受けていた人々の苦しみが伝わってきて胸が苦しくなりました。壺に水やヒトの排泄物を入れ、そこに逆さに吊るされた人の頭を入れる拷問が行われていたことを音声ガイドで聞き、想像を超える過酷さを感じました。展示物の近くには色つきの絵で拷問の様子が描かれていて、色がつくことでモノクロ写真だけでは伝わらないものがありました。色があることでより当時の拷問の様子が分かって、その様子がとても衝撃的で今でも鮮明に覚えています。ツールスレン博物館の訪問で特に印象的だったのは、収容されていた人々の顔写真でした。その顔写真には何か説明文だったり、収容されていた人達のメッセージがあったりしていたわけではないですが、その収容者たちの表情だけで言葉には表せない何かを感じて、見ている人に訴えかけてくるものがありました。亡くなった人達の頭蓋骨や骨が数えきれないほど展示されていて、それらを見るたび

にポル・ポトがいかに非人道的なことをしていたかを痛感させられて、ポル・ポトに対して怒りすら覚えました。

次にキリングフィールドを訪れて感じたことや考えたことを書こうと思います。キリングフィールドはその名の通り、処刑場です。ツールスレンで拷問された人々やポル・ポトを中心とする共産ゲリラ組織であるクメールルージュに捕らえられた人々がキリングフィールドに運ばれて５万人もの人が処刑されました。

キリングフィールドに入ると、大きな慰霊塔が見えます。そこには、キリングフィールドで亡くなった人たちの頭蓋骨がおびただしい数並んでいて、とても衝撃的でした。カンボジアに行く前に少し見たことがありましたが、実際に見ると写真で見るよりも衝撃的でした。キリングフィールドもツールスレン同様色つきの絵があって、そこには強制労働を強いられている子どもたちが描かれていました。その子どもたちはとても辛そうで悲しい表情をしていました。また、キリングフィールドにはキリングツリーというものがありました。キリングフィールドでは子どもの頭をこのキリングツリーに打ちつけて子どもを殺害することもしていました。この話を聞いて想像するだけで心が締め付けられました。ツールスレン博物館とキリングフィールドを訪れてポル・ポトがいかに残酷なことを行っていたのかを良く知ることが出来ました。また、絶対にこんなことは繰り返してはいけないと思い、平和であることの尊さに改めて気づきました。

（左がキリングフィールドにある慰霊塔、右がキリングツリー）

寺子屋を訪れて

　カンボジアでの６日間の活動のうち４日目に寺子屋を訪れました。ここではまず、寺子屋を訪れて感じたことや思ったことを書いて、次に寺子屋を訪れた後に実施した学習者の家庭訪問で感じたことや思ったことを書こうと思います。そもそも寺子屋は、農村地域の住民の識字教育・収入向上プログラム・人材育成の拠点となることを目指して作られ、2012 年から復学支援が始まりました。今回のスタディツアーでは小学校クラスと中学校クラスの授業見学や Q&A、生徒との交流を寺子屋で行いました。

寺子屋を訪れて印象的だったことが２つありました。まず一つ目は言葉が通じなくてもコミュニケーションを取るうえであまり障壁にならないということです。生徒と交流するために担当ごとに分かれて折り紙をしたり、扇子にイラストを描いたり、紙飛行機を飛ばす遊びをしました。私は扇子にイラストを描いて遊ぶ担当だったのですが、説明をするときは通訳の方を通して現地の言葉であるクメール語で説明をしていただきました。生徒にそれ良いね！など自分が本当に伝えたいときはクメール語を使い、それ以外はジェスチャーやリアクションでコミュニケーションをとることが出来ました。最初は生徒たちも私たちも緊張していたのですが、だんだん生徒が私たちを受け入れてくれて、扇子に私たちの名前を入れてくれるほど仲良くなることができました。寺子屋で出会った先生のお子さんとは特に仲良くなり、家庭訪問の際にはずっと腕をつかまれていました。寺子屋を訪れる前は生徒としっかりコミュニケーションをとれるか不安でしたが、生徒たちが私たちを受け入れてくれたおかげでコミュニケーションをとることができ、さらには仲良くなることまでできて自分が思っていたよりも外国の人とコミュニケーションをとるのは難しくないのかもしれないと今回の経験を通して思えました。ただ、言語が通じないと自分が思っている 100%のことは伝えられないので、言語を学ぶ重要性にも気付きました。寺子屋で感じたことの二つ目は、寺子屋に通っている生徒は楽しんで勉強をしているということです。中学校クラスの子どもたちに勉強は好きですか？と質問をしたところ、皆手を挙げて勉強が好きだと言ったことに驚きました。日本の学生は私自身含め学校に行きたくない日があると思います。ただカンボジアの寺子屋に通っている子どもたちは、寺子屋があってうれしい、勉強が好きだから寺子屋に来たと言っています。私としては、何事も好きだからやるという流れが一番素晴らしいと思います。子どもたちが勉強を好きでいられる理由は勉強するのが楽しいからなど様々な理由があると思いますが、勉強が好きな理由の一つとしては学校に通いたくても通えない時期があったからだと思います。先ほども述べたように、寺子屋は中途退学をしてしまった子どもたちが公教育に戻るた

めの復学支援をしています。そのため、寺子屋に通っている子どもたちは中途退学を経験しているからこそ勉強が好きなのだと思います。そんな勉強が好きな子どもたちの将来の夢は警察官や先生、軍人になることです。私の考えではありますが、寺子屋の子どもたちが、日本の子どもたちのようにパイロットやパティシエが将来の夢に挙がらないのは、身の回りにそれらを職業にしている大人がいないからだと思います。都市部の子どもたちは様々な職業で働いている大人に触れることが出来るため、将来の夢の幅が広がりますが、農村部の子どもたちはそのような大人たちに日常から触れることができないため、初めから将来の夢の幅が都市部の子どもたちに比べて狭まってしまいます。生まれた場所や環境で子どもたちの将来の夢の幅が変わってしまったり、子どもたちの可能性を狭めてしまったりするのは、かなり深刻な問題だと思います。この問題を解決するには都市部と農村部の経済格差や情報格差を是正することが不可欠だということに気づき、これらの格差を是正する重要性を再認識しました。

次に家庭訪問を通して感じたことや考えたことについて書こうと思います。家庭訪問で印象的だったことは、カンボジアには日本と違った幸せの形があるということでした。今回家庭訪問させていただいたのは木造の高床式の家で、電球一つ、扇風機一つで生活していました。乾季になると扇風機が一つしかないため暑くて寝られない日もあるそうです。その家庭では、お母さんの収入と、都市部に出稼ぎに出ているお父さんと長男の収入で生計を立てているとおっしゃっていました。お母さんに質問する機会があって、今の生活は幸せですか？と失礼ともとれる質問をしたところ、お金が足りないなど困っているけど幸せもあると答えていただきました。村には住所がなく、家庭ごとに幸せを築くというよりは村全体で幸せを築くというかたちで日本よりもコミュニティが大きいと感じました。子どもたちは村の子ども同士で仲良く楽しくのびのびと暮らしていて、ゲームで遊んでいるだけでは感じられない、人同士でしか感じられない幸せの中で生活する姿も見ることができました。このような村の様子を見学し、家庭訪問をさせていただいたお家のお母さんへのインタビューを通して、日本と違ってインフラが整っておらず日本と比べて貧しい暮らしをしていても幸せがあるのだな、こういう幸せの形もあるのだなと思いました。どうしても貧しい暮らしの様子をみると、“毎日苦しいのかな、辛いのかな”と思いがちですが、辛い生活の中でも幸せを感じられているということを聞いて偏見で物事を見てはいけないと改めて気づかされました。また、日本のように家庭ごとに幸せを築くよりも、コミュニティの輪を広げて皆で幸せを築くほうが幸せなのではないかとも考えました。

（左上は先生のお子さんとの写真、右上は寺子屋、下の二つは家庭訪問させていただいたお家の写真）

最後に

今回カンボジアスタディツアーに参加して、渡航する前には全く想像していなかった世界に出会うことができ、素晴らしい仲間たちとも出会えました。また、カンボジアの歴史や人々の暮らしを見て様々なことに気づき、たくさんのことを学ぶことが出来ました。今回学んだことを無駄にせず、多くの人に伝えていきたいと思います。

※参考文献

【カンボジア・歴史】　ポル・ポト政権の大量虐殺はなぜ起こったのか

https://techpackers4.com/cambodiahistory/（参照 2024-09-01）

カンボジアのこと語ります　その２悲しい歴史編

https://readyfor.jp/projects/cam-bi2021/announcements/178989（参照 2024-09-01）

クメールルージュとは？ 意味や使い方-コトバンク

https://kotobank.jp/word/%E3%82%AF%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%A5-485138（参照 2024-09-01）